

平成29年度事業報告書

自：平成29年4月1日 至：平成30年3月31日

(公益事業)

公1事業、写真に関する創作活動の奨励、人材の育成、教育に係わる事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校35校で指導者22名、参加児童数961名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(13年間の合計641校22,588名)。富士フイルム㈱の協力で行った。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フイルム㈱・富士フイルムイメージングシステムズ㈱が主催する「“PHOTO IS”想いをつなぐ。50,000人の写真展2017」での特別企画「“PHOTO IS”小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。本年も753点を7月～10月迄東京等11会場に展示した。児童がどのような物に興味をもって撮っているか、子どもたちの多様な感性を鑑賞していただいた。また、2017JPS展 東京展開催中に小学校4年生から6年生の児童とその保護者を対象にした「ワクワク・ドキドキ写真教室」を5月21日(日)東京都写真美術館1Fスタジオ&恵比寿ガーデンプレイスで行った。参加者41名。

(2) 「エコトークフォトコンテスト」を都近郊の2カ所の小学校で実施、参加児童60名の作品を選考した。クラレトレーディング㈱の協賛。

(3) 高等学校文化連盟全国写真専門部との共催で催している高校写真部顧問を対象とした第11回「デジタル写真講座」を、6月3日群馬、7月15日広島の2カ所で行った。高校生の大半がデジタルでの写真制作で、顧問の先生方もカメラの仕組みや使い方、インクジェットプリントの技術を習得しようとして約7時間の講習を熱心に体験された。㈱ニコンイメージングジャパンとエプソン販売㈱の協力で行った。

日時	開催地	講師	受講者
6月3日(土)	群馬県立桐生工業高等学校	山口勝廣、加藤雅昭、越 信行、山口規子	教師14名
7月15日(土)	広島県・アステールプラザ大会議室A	松本徳彦、高村 達、新田英樹、森本勝義	教師18名

(4) 技術研究会を行った。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「最新高画質動画セミナー ～動画から切り出す写真の時代がやって来る!?～」 講師：赤木正和(写真家・大阪芸術大学写真学科准教授)	JCIIビル 6階会議室	7月1日(土)	69名
第2回「シリーズ：デジタル時代のモノクロプリント その1 インクジェットプリント」 講師：松平光弘(アトリエマツダイラ代表 プリンティングディレクター)	JCIIビル 6階会議室	2月19日(月)	84名
第3回「シリーズ：デジタル時代のモノクロプリント その2 デジタルネガモノクロプリント」 講師：永嶋勝美(写真家、APA会員)	JCIIビル 6階会議室	平成30年3月 26日(月)	62名
第4回(関西)「動画も撮れる写真家になろう～写真家のための動画基礎講座～」 講師：白谷 賢(写真家、APA会員)	大阪市立総合 生涯学習センター 第1研修室	平成30年3月 30日(金)	43名

(5) 専修大学文学部人文・ジャーナリズム学科での講義「報道写真論」の講師に広河隆一、宇井眞紀子両会員を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを方針として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

公2事業、写真の表現に関する展示、講演、保存に係わる事業

(1) 「第42回2017JPS展」を東京、名古屋、京都で開催した。

公募作品受付：2016年12月10日(土)～2017年1月15日(日) 作品審査：2月4日(土)

審査員：熊切圭介（審査員長）、野町和嘉、三好和義、吉野 信、菅原隆治（『CAPA』編集長）

共 催：東京都写真美術館

後 援：文化庁、東京都ほか

応募総数：1,772名6,186枚（一般部門：1,671名5,940枚、18歳以下部門：101名246枚）

入賞・入選者総数：273名465枚

一般部門：243名418枚（文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選213名） 18歳以下部門：30名47枚（最優秀賞1名、優秀賞9名、入選20名）

イベントコーナー：「ヤングアイ」参加校10校

参加校・現代写真研究所、東京工芸大学 芸術学部 写真学科、学校法人呉学園 日本写真芸術専門学校、日本大学 芸術学部 写真学科、東京総合写真専門学校 写真芸術第二学科、専門学校 名古屋ビジュアルアーツ 写真学科、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科、学校法人 日本写真映像専門学校、大阪芸術大学、九州産業大学 芸術学部 写真映像学科

会員作品部門：会員92名184枚「ポートフォリオ～Portfolio～」展示

総展示数：総展示数：659枚（公募273名465枚、会員92名184枚、ヤングアイ10校10点）

総入場者数：7,638名

入場料（各展共通）：一般700円（団体割引560円）、学生400円（団体割引320円）、高校生以下無料、

65歳以上400円（関西展、名古屋展は65歳以上無料）※団体は20名以上

各都道府県応募者数：北海道 27、青森 7、秋田 5、岩手 18、山形 4、宮城 15、福島 10、群馬 10、栃木 26、茨城 49、埼玉 146、千葉 94、東京 200、神奈川 182、山梨 3、新潟 49、長野40、富山1、石川 10、福井 6、岐阜 21、静岡 24、愛知 162、三重 32、滋賀 62、京都 93、大阪 129、奈良 43、和歌山 25、兵庫 83、鳥取 11、岡山 32、島根5、広島 32、山口 8、香川 16、徳島 3、愛媛7、高知 5、福岡 30、佐賀 9、長崎 6、大分 4、熊本 5、宮崎 2、鹿児島 6、沖縄 13、海外 2名

2017JPS展副賞提供社（54社）：(株)アイデム、朝日新聞出版（アサヒカメラ編集部）、(株)アスカネット、アドビシステムズ(株)、(株)アマナ、(株)市川ソフトラボラトリー、(株)栄光舎、エプソン販売(株)、LPL商事(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノンマーケティングジャパン(株)、(株)学研プラス（CAPA編集部）、(株)ガードフォース ジャパン、清里フォトアートミュージアム、(株)クラレ、(株)クレヴィス、(株)ケンコー・トキナー、(株)玄光社、(株)コスモス インターナショナル、サイバークラフィックス(株)、(株)Sakura Sling project、サンディスク(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、写真文化首都 北海道「写真の町」東川町、スリック(株)、(株)セコニック、ソニー(株)、(株)ソフトウェア・トゥー、(株)タムロン、(株)DNP フォトイメージングジャパン、デジタルカメラグランプリ事務局、(株)ニコンイメージングジャパン、(株)日経ナショナル ジオグラフィック、一般財団法人 日本カメラ財団、(株)日本カメラ社、(株)日本写真企画、ハクバ写真産業(株)、パナソニック(株)、(株)ピクトリコ、(株)風景写真出版、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(株)プロ機材ドットコム、プロフォト(株)、ベルボン(株)、(株)堀内カラー、マイクロンジャパン(株)、マンフロット(株)、三菱製紙(株)、光村印刷(株)、(株)モーターマガジン社、リコーイメージング(株)（50音順）

開催名	会場	日時	参加数
◆東京展（共催：東京都写真美術館 後援：文化庁、東京都 協力：会場モニター・パナソニック(株) 表彰式 講演会「審査員よもやまばなし」講師：熊切圭介、野町和嘉、三好和義、吉野 信、菅原隆治（『CAPA』編集長） 祝賀パーティー イベント「単焦点レンズを楽しもう！！」	東京都写真美術館 B1F	5月20日（土） ～6月4日（日）	4,344名
	東京都写真美術館 1F	5月20日（土）1時	190名
	ホール	〃 3時	190名
	ビューステーション恵比寿	5月20日（土）5時	173名
	東京都写真美術館 1F	5月27日（土） 10時30分	31名
◆名古屋展（後援：文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会） 表彰式（東海地区入選者紹介） 講演会「世界86か国を旅した写真家による旅と世界遺産秘話」講師：三田崇博（JPS会員） イベント『写真縁日』～写真を体感しよう！～	愛知県美術館 キャンプー H・I室	7月11日（火） ～17日（月）	1,853名
	愛知芸術文化センター12F	7月15日（土）1時	15名
		〃 2時	105名
	愛知芸術文化センター12F	7月15日（土）	15名

◆関西展（後援：文化庁、京都府、京都府教育委員会、京都市、京都市教育委員会） 表彰式（関西地区入賞入選者交流会） 講演会「女性写真のパイオニア山沢栄子（1899－1995）“未来は未知数”」講師：畑 祥雄（JPS会員）、西岡伸太（JPS会員） イベント「instax チェキで遊ぼう」（協力：富士フイルムイメージングシステムズ（株））	京都文化博物館 5F ミュージアムギャラリー	9月26日（火）～30日（土）	1,441名
	ウイングス京都（京都市男女共同参画センター）バントホール	9月29日（金）2時 " 3時15分	174名 174名
	京都府庁旧本館	9月24日（日）	18名

(2)「2017年新入会員展－私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月13日（木）～19日（水） 13日（木）18:00～19:30	アイデムフォトギャラリー「シリウス」 " オープニングパーティー	448名	展示29名58枚 参加者112名
8月11日（金）～17日（木）	富士フイルムフォトサロン大阪	3,998名	

(3)「写真が持つ力とは何か」について語る、第11回JPSフォトフォーラム「伝える、残す、写真のカラー記録の意味と価値」を11月5日（日）、有楽町朝日ホールで開催した。参加者354名。（共催・朝日新聞出版、後援・文化庁）講演とパネディスカッション パネリスト：英伸三、宇井眞紀子、公文健太郎 司会：佐々木広人（『アヒカガ』編集長）、協賛（7社）：エプソン販売（株）、オリンパス（株）、キヤノンマーケティングジャパン（株）、（株）シグマ、（株）タムロン、（株）ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ（株）。

(4) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」

1、収集・保存とデータベース

①本年度の写真原板の主な収集作家は、岡村崔、常盤とよ子、笹本恒子、山端庸介などの写真原板を受入れ、相模原の収蔵庫に6,830本を収めた。

・岩波書店より奈良地方の法隆寺、東大寺、興福寺をはじめとする古寺の国宝、重要文化財を撮影した大量の写真原板約4万本を受け入れた。これは岩波書店が1965年から40年余にわたって刊行してきた、わが国の文化財が集積されている奈良六大寺を始めとする仏教美術の粋を精細に記録した写真原板で、撮影した渡辺義雄、入江泰吉など仏教美術を専門に撮影されている写真家が撮影されたもので、その精緻な画像は仏教美術、建築に関わる学者たちから最高の作品と言われるものである。原板は8×10～4×5のカラーとモノクロフィルム約25,000枚に及ぶものである。現在写真原板と関係資料は、故渡辺義雄氏の元居室（小金井）を借り受けて保存している。さらに『岩波写真文庫』286冊分の写真原板約3万本を受け入れ、低温低湿設備の整った共進倉庫に収蔵するなど、収蔵原板の質的充実を図った。

・データベース（DB）に関しては、管理用DBから公開用のDBへのデータの移行がスムーズに行えるように改善した。公開用DBには名取洋之助、吉岡専造、渡辺義雄、旧内閣情報局の写真協会が撮影したフィルム、緑川洋一、岩宮武二、野水正朔、高井潔らの写真原板からの画像約5,110コマを公開している。このほかに管理用DBに登録されてものは約4,700点ある。

②「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」は、現在相模原の収蔵庫に収蔵している写真家50名の画像データベース（SAICHI）から約3,000点を選び出し、ホームページから閲覧ができるようにした。

2、保存に関するセミナーを東京都大阪で行った。

保存センターが構築している写真原板のデータベースの現状と閲覧について、そのノウハウについて2つのセミナーを催し、説明した。また、「保存に適した包材のデモンストレーション」では、（株）コスモインターナショナル、（株）資料保存器材、（株）TTトレーディング（旧社名特種紙商事（株））、PGI、ラーソン・ジュール・ニッポン（株）の資料展示と説明があった。

開催名	会場	日時	参加数
セミナー（関西）「写真フィルムを長期保存するには…講演と包材のデモンストレーション」講師：園田直子（国立民族学博物館教授）松本徳彦（JPS副会長）、中川裕美調査員	大阪・メットライフ本町スクエアB1会議室	10月20日（金）	90名
page2018お正月イベント・JPSセミナー「劣化したフィルムへの対策」講師：塚原琢哉（写真家） 包材メーカー5社による保存に最適な包材のデモンストレーション	池袋パシフィック文化会館7階会議室	平成30年2月7日（水）	67名

3、広報活動

日本写真保存センターが収集保存している写真原板から1920～1970年の作品の、名取洋之助、木村伊兵衛、渡辺義雄などの写真と、わが国の文化財の記録、日本人の暮らしぶりの記録写真約104点を選

び、日本最大のフォトイメージングショーであるCP+2018特別展「後世に遺したい写真」として2018年3月1日(木)～4日(日)、横浜・みなとみらいギャラリーで開催した。国内各地4日間で6,828名が来場した。また、写真展開催中に「後世に遺したい写真」として展示する作品のセミナー「過去から未来へのメッセージ」を、写真評論家の飯沢耕太郎と松本徳彦副会長の両氏で時代背景や写真が語るメッセージ、写真の遺した大きな価値を分かりやすく解説した。パシフィコ横浜 会議センター会議室、参加者150名。

4、2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数12社、1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、オリンパス(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、一般社団法人日本写真著作権協会。

(5) 創立65周年記念写真展「日本の海岸線をゆくー日本人と海の文化」横浜展を4月1日(土)～6月25日(日)に日本新聞博物館で読売新聞社と共催で開催した。入場者数は9,778名。写真は日本の海岸線を辿りながら、その風景と風土、人の暮らしを通して見る日本の国土と文化、社会を123人による197点の作品。

(6) 日本写真家協会企画写真展「20世紀に活躍した顔」を11月21日(火)～27日(月)、ニコンプラザ新宿 THE GALLERY 1+2で開催した。1960年から90年代、出版界が隆盛であった時代に活躍した写真家が撮影した、文士や芸術家、政治家、学者、舞台人、スポーツ関係者など多彩な人物像で構成する。本展の出展者は会員18名で、登場人物40名。

公3 事業、写真に関する著作権の普及、啓発に係わる事業

(1) 著作権に関する研究会、セミナーを開催した。

開催名	会場	日時	参加数
第1回「もう一度聴こう『著作権基礎講座』 講師：小川明子(早稲田大学知的財産法制研究所招聘研究員・法学博士)	JCIIビル6階会議室	7月12日(水)	59名
第2回(関西)「もう一度聴こう『著作権基礎講座』 講師：小川明子(山口大学 知的財産センター特命准教授)	大阪・メットライフ本町スクエア会議室	平成30年2月16日(金)	64名
第3回(関西)「思わぬトラブルを招かないために！～SNS時代の写真ルールとマナー～」 講師：山口勝廣 (JPS専務理事)	大阪市立総合生涯学習センター第2研修室	平成29年2月21日(火)	67名

(2) Web上での写真著作権の問題点を研究した。

平成30年2月8日JCIIビル会議室に於いて、「インターネット上の著作権侵害」について浅川有三(弁護士、浅川倉方法律事務所)を講師に招いて研修会を行った。参加者15名。

(3) 各種著作権契約に関する研究をした。

(4) 著作権の情報収集と公表を行った。

(5) 著作権に関する「著作権よろず相談室」を毎月第3水曜日実施。相談数15件。

(6) 保護期間70年延長への継続運動の研究等をした。

(7) 保護期間の満了した写真著作権の現状調査継続と関係機関との話し合いに参加した。

(8) 「フォトコンテスト応募に関するガイドライン」の実施状況の調査研究を継続して行った。

(9) 日本写真著作権協会(JPCA)との写真著作権に関わる事業協力をした。

(10) JPCA共催事業『著作権関連記事&連載「著作権研究」一覧』(2016年1月)に次いで「著作権保護期間の死後起算50年」獲得への経緯について『著作権関連記事特集Ⅱ号』として収録し『JPS会報著作権関連記事特集Ⅱ号』を6月に発行し関係者に配布した。また、『写真著作権 第2版』(太田出版)の2刷が10月に発行された。

公4 事業、写真に関する図書の編集発行、電子出版・情報に係わる事業

(1) 165号・focus第1回「笹本恒子写真賞」受賞者決定と。東日本大震災からの6年特集、95歳を超えてなお元気の芳賀日出男名誉会員の写真人生を紹介。166号・日本写真保存センターに関する座談会「文化財写真の保存と利活用に向けて」の掲載。167号は第11回JPSフォトフォーラムの内容、写真展「後世に遺したい写真」の概要を紹介。

JPSとエプソン販売(株)の共同企画による写真展「～第2回JPS会員によるプリント競演展～ 我が絶景」

を出版広報委員会が担当し、2017年4月7日(金)から4月20日(木)までの2週間にわたり西新宿のエプソナイメージングギャラリー エプサイトにて開催した。入場者延べ2,377名。
 (2) 電子出版、インターネット、ホームページを利用したサービス業務を行った。

公5事業、写真に関する優れた技術開発、表現活動に対する顕彰事業

- (1) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第43回「日本写真家協会賞」を、日経ナショナル ジオグラフィック社に贈り、贈呈式を、12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。贈呈理由は、1995年4月『ナショナルジオグラフィック日本版』を創刊し、2012年から「日経ナショナル ジオグラフィック写真賞」を設け、国際的に活躍できる新進のドキュメンタリー写真家を発掘し表彰されてきたことに対して。
- (2) 新進写真家の発掘と育成を図るために、2017年第13回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。
- ①公募：35歳までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を、公募期間は7月1日～8月20日までに提出。応募者はプロ写真家から大学在学中の学生まで28名30作品。男性19人女性9人。カラー21作品、モノクロ8作品、カラー・モノクロ混在が1作品。9月1日、飯沢耕太郎(写真評論家)、広河隆一(フォトジャーナリスト)、熊切圭介会長の3氏により、厳正な審査を行った。名取賞に鍵健作「Limited future」(カラー30点)を、名取洋之助写真賞奨励賞に楠本涼「もうひとつの連獅子」(カラー30点)を選び、授賞式を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷で行った。
- ②2016年第13回「名取洋之助写真賞受賞作品写真展」を催した。

会期	会場	入場数
平成30年1月26日(金)～2月1日(木)	東京・富士フィルムフォトサロン東京	8,818名
平成30年2月16日(金)～22日(木)	大阪・富士フィルムフォトサロン大阪	3,464名
平成30年3月7日(水)～11日(日)	福島・福島市民ギャラリー	95名

JPSが企画する『名取賞受賞作品写真集』を制作した。

- (3) 第1回「笹本恒子写真賞」は、有識者の推薦による実績のある写真家16名の候補者を、4月17日、JCII会議室にて、選考委員 椎名誠、大石芳野、熊切圭介の3氏により厳正な選考を行い、写真家宇井真紀子さんに贈ることを決定した。授賞式は12月13日(水)アルカディア市ヶ谷。受賞記念写真展「アイヌ、現代の肖像」を12月14日(木)～20日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」で催した。入場者数：713名
- (4) [第42回2017JPS展]入賞・入選者273名を5月20日(土)、東京都写真美術館1階ホールで表彰した。入賞・入選者総数：273名。一般部門：243名(文部科学大臣賞1名、東京都知事賞1名、金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、奨励賞5名、優秀賞17名、入選213名)、18歳以下部門：30名(最優秀賞1名、優秀賞9名、入選20名)
- 入賞者：文部科学大臣賞・増田 俊次「帰依」(3枚組 カラー)
 東京都知事賞・後藤芙美子「不安」(2枚組 モノクロ)
 金賞・柴原 連「漁に生きる」(5枚組 カラー)
 銀賞・森本一宏「でっ…でっかい!!」(単 カラー)
 銀賞・森本 巧「絡み」(5枚組 モノクロ)
 銅賞・羽場照雄「城壁に舞う」(単 カラー)
 銅賞・三好紘一「視線」(単 カラー)
 銅賞・山下徹志「繚乱」(単 カラー)
- 18歳以下部門最優秀賞・西端優花「Dreamer」(単カラー)
- 企画展示「ヤングアイ」公益社団法人日本写真家協会会長賞：東京総合写真専門学校「自画曼荼羅」青木大祐
 ヤングアイ奨励賞：学校法人呉学園 日本写真芸術専門学校：「赤と黒」周遥、袁珥

公6事業、写真に関する国際交流事業

- (1) 国際交流セミナー、研究会を開催した。

開催名	場所	日時	参加数
第1回「オーストリアの写真家H.H. Capor 氏との交流会」オース写真展“The Sound of Music”について意見交換をした。	オーストリア大使館内、オーストリア文化フォーラム東京	4月20日(木)	20名
第2回「写真家とAIの第一歩」 講師：米川孝宏(BRAIN SIGNAL株式会社CEO、工学博士)	JCIIビル6F会議室	平成30年2月27日(火)	43名

- (2) 来日する海外写真家との交流について、10月13日、中国撮影家協会副秘書長の杜金 (DuJin) 氏以下7名の表敬訪問があり、当協会の熊切会長、野町副会長と馮学敏会員が応対した。今回の来日の主目的は来年東京で開催する写真展の後援依頼のため挨拶にきた。前向きに検討することを伝えた。始終友好的に話は進み、再会を約束して帰られた。また、平成30年2月26日、コロンビア写真家ホルヘ・ガンボア氏が東京での写真展を機に来日。シエラ・ネバダ・デ・サンタ・マルタの先住民族の宗教儀式をテーマにした作品についてやガンボア氏と日本との関わりについてなどを話し合った。
- (3) 海外の写真情報の収集として

(収益事業)

収 1 事業、書籍、物品の販売事業

- (1) 『2017JPS展作品集』を製作し、5月20日に発行した。
- (2) ネガカバー、ファイルなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- (3) 海外プレスカードの発行をした。
- (4) 『JPS会報著作権関連記事特集号Ⅱ』6月に発行。『写真著作権』(太田出版)第2版の発行。

(その他の事業 共益事業)

他 1 事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- (1) 『JPSニュース』を年11回 (No. 551~561) 発行した。
- (2) 『会員名簿2018~2019』を平成30年1月に発行した。

他 2 事業、祝賀会の事業

- (1)、平成29年度の会員相互祝賀会を12月13日(水)、アルカディア市ヶ谷に於いて、会員、賛助会員や文化関係者などの出席で行った。参加者339名。

他 3 事業、保険の事業

- (1) 2017年の「J P S 団体総合生活補償保険」は、任意保険の加入者減少で団体特約を得るための協会負担額が大きいため団体加入の募集を見合わせた。また、昨年の任意加入者に対し満期更新をされる方に、今年限り団体割引分を協会が負担した。満期更新者は5名、15%割引額34,223円を負担した。

事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。